

■ワークショップに参加したみなさんからのご意見

《 鶴嶺中学校のみなさん 》

- 大人の方から私達中学生の意見など、様々な視点からの考えができたので良かったです。これからの生活に活かしたり、友達、家族などに伝えていけたらと思います。
- 回数を重ねていくごとに、考えることの楽しさや、町を皆と協力して作っていくことに興味が出てきて、自分から意見を出せるようになり、考えが沢山溢れてきて、更に良いポイントを見つけたことができました。
- こんなに深く考えたことがなかったので、この地に対しての見方が変わった気がしました。

《 自治会のみなさん 》

- じっくりと中学生の声を聞くことができる機会に感謝！市及び地域が目指す大事なテーマであると確信しています。ありがとうございました。
- 災害が発生した時には中学生の力は重要だと思いますので、今後もこのようなコミュニケーションは大切にしていきたいと思いました。

■ 加藤先生からの最終講演（東京大学生産技術研究所 加藤先生）

キーワードは「防災“も”まちづくり」と「みんなで進める」

このワークショップは、二つのキーワードのもとで話し合いを進めてきました。一つは、「**防災“も”まちづくり**」。これは、防災についてはもちろんのこと、それ以外の地域の課題も含めて総合的に考えていこうという意味です。

もう一つは、「**みんなで進める**」。中学生も、大人も、地域のいろいろな活動をされている方も、みんな含めて、いかに関心を持つように裾野を広げていくのか、という考え方です。防災対策に消極的な姿勢の人も多い中で、無理に「防災は重要ですから、頑張ってください」というのではなく、たとえば、皆さんのアイデアとしても挙がっていた、お祭りの中で楽しみながら取り組めるように工夫するなど、なるべく自然な形で、前向きに取り組めるような方法を考えていくと良いのではないのでしょうか。

住民が主体となった地域づくりの事例紹介

徳島県の伊座利集落は、僅か100人の過疎集落ですが、資源に恵まれない環境にありながらも、住民それぞれが力を発揮することで、数十年先まで維持できるようなコミュニティとして成立していけることを実証しました。

（写真は、伊座利地区の全景です。漁船クルージング体験や磯遊び等を通じて、漁村生活の理解を深めています。住民の6割を移住者が占めています。）



国土交通省「第2回先進的まちづくりシティコンペ」受賞団体取組概要より

■ 防災“も”まちづくりのワークショップを終えて…

4回に渡り、皆様色々ありがとうございました。中学生にとっても、大人にとっても、団体の人にとっても、有り難い機会をいただきました。また、心温まる資料も提供いただきました。

鶴嶺東地区は開墾されてから500年以上に渡って人が生活をしてきた地域です。大人も中学生の皆さんと一緒に考えて作り上げたワークショップを活かし、鶴嶺東地区の歴史や伝統を大切にしながら、これからの防災“も”まちづくりの活動を進めていきます。明るい希望を持って頑張っていきたいと思います。

円蔵自治会
小室会長



自助（個人）・共助（地域）の視点から防災まちづくりについて考えてみませんか？

鶴嶺東地区「防災“も”まちづくりワークショップ」ニュース

Vol.4



さあ「防災“も”まちづくり」を始めよう！

茅ヶ崎市では、東京大学生産技術研究所の加藤孝明准教授のご協力のもと、平成21年度から「防災都市づくりワークショップ」（昨年度から「防災“も”まちづくりワークショップ」に改称）を実施し、地域のみなさんと一緒に災害に強い都市づくりを進めております。

今年度は、鶴嶺東地区のみなさんや鶴嶺中学校の生徒の方々と一緒に全4回のワークショップを実施し、鶴嶺東地区のまちづくりについて考えてきました。

4回目の今回は、「防災“も”まちづくり」のアクションプログラムとして、研究室ごとに「キックオフイベント」と「じっくりやること」の具体的な実施内容を検討しました。

～第4回 鶴嶺東地区「防災“も”まちづくりワークショップ」で行ったこと～

《はじめに》

前回までの振り返り

《グループワーク①》

「すぐやること（キックオフイベント）」のアクションプログラムをつくろう！

《グループワーク②》

「じっくりやること」のアクションプログラムを考えよう！

《研究所修了式》

ワークショップの振り返り

《最終講演》

加藤先生からの最終講演

《閉会》

閉会のあいさつ

■ 防災“も”まちづくり研究所修了式 「名誉研究員」認定証書授与 & 宣言書

全4回のワークショップの間、防災“も”まちづくり研究所の研究員として活動してきた参加者に「名誉研究員」としての認定証書が贈られました。



「名誉研究員」とは

次に研究員になる人に、きちんと教えられる能力のある研究員という意味で、この活動や、活動を通して得た知識を伝えていってほしいという思いが込められています。



授与された認定証書。研究員が自分で書いた「宣言書」が貼り付けてあります。

まちづくり推進室

キックオフ
イベント

企画名

お祭りの体験を通して防災を学ぼう！

地域のお祭りで、防災について楽しく学べる消火器的当てゲームや、煙体験の迷路を実施します。

いつ (日程・時期)	何を (実施事項)	誰と(自分)			
		家庭	学校	地域	その他
3月～4月 春休み前くらいからみんなで集まる⇒各自で調べる⇒持ち寄る	◆防災×ゲーム ・水消火器的あて等 ・どんな迷路を作れるか考える ・吊り橋効果を出すための迷路	◆うちわ ・ローリングストックについて調べる ・賞味期限 ・どんな食材が災害時に使えるか ・ガスが使える時、使えない時 ・おいしく食べる方法			○ 中学生のみんな
6月～7月	◆防災×ゲーム ・4月1日頃のTBS総会等で、祭りの日程、時間、お祭りにどれくらい人が来るのか確認	◆うちわ ・うちわをつくる ・材料を用意する ・どんな材料が必要か調べる ・うちわの製作目標500個くらい？(祭りの来場者次第)		○ 自治会役員	
8月中旬 ・TBS祭りは8月20日頃	◆防災×ゲーム ・水消火器ゲーム ・煙体験・迷路にする ・ダンボールで作る ・小さい子どもは中学生と一緒に ・各中学校に宣伝する ・17時頃の明るい時間に実施	◆うちわ ・ローリングストックの紹介をうちわに書く ・TBSの祭りでうちわを配る	○ 友達に協力してもらう	○ 自治会長に聞く	○ 自治会館で作業したい

じっくり
やること

企画名

安全なまちをつくるために自転車のマナーなどを伝える

みんなが自転車のマナーを守る安全なまちになるように、中学生が小学生に教える自転車講座など、様々な目線での学習機会を設けます。

いつ (日程・時期)	何を (実施事項)	誰と(自分)			
		家庭	学校	地域	その他
2～3年	◆中学生のうちにしっかり自転車のマナーなどを学ぶ機会づくり ・大人の力がないとできないので、自治会の環境部会へ参加する ・幅広い年代の人が一緒に学習できる場をつくる ・中学生が声を出せる場を作る ・テーマフリーの場（地域と中学生が気軽にディスカッションできる場）を作る		○ 総合の授業	○	
5年	◆自転車のマナーなどを伝える自転車講座 ・中学生から小・中学生へ ・高校生などの先輩から後輩へ ◆自転車のマナーに関して伝えたいこと ・自転車走行中のヘッドホン着用と自転車の逆走禁止		○ 		
10年	◆自転車マナー向上の取り組みを継続 ・信号待ちの時に自転車マナーへの注意を訴える ・宣伝車で自転車マナーについて流す ◆その他 ・一人暮らしのお年寄りが助けを呼ぶためのインターホンブザーの設置 ・ミラーを付ける ・目に見えるところに注意を出す			○ 	○ 市役所

景観みどり室

企画名

キックオフ
イベント

お年を召された消火器の若がえりプロジェクト／野菜の逆襲 vegetable

まちの中にたくさんある、見るからに古びてしまった街頭消火器をチェックして、色を塗り直します。
野菜の直売所や、生産緑地の場所などを示した「vegetable map」を作ります。

	いつ (日程・時期)	何を (実施事項)	誰と(自分)			
			家庭	学校	地域	その他
お年を召された消火器の 若がえりプロジェクト	4月中旬～下旬	・経験者（市役所）に塗り方を教えてもらう ・街頭消火器の更新に関する市の計画がどうなっているか確認する必要がある ・通学途中に色を塗りたい（日焼けしている）消火器を確認		(6人で) ◎	○ (まちから協議会の防犯・防災部会と連)	
	5月	・お年を召された街頭消火器がどのくらいあるか調べる ・エリアで担当者を分け、消火器の位置を落とした図面を用意しておく ・全ての街頭消火器の色を塗り替えるのにどのくらいの時間がかかるか確認 ・計画を立てる		◎	○	
	6月11日の週	・色塗りを試しにやってみる ・ピフォアフターで写真を撮っておく ・学校の近くで		◎	○	
	平成31年以降	・毎年少しずつやってみる ・色を塗りながら、街頭消火器がどこにあるか確認する		◎	○	
マップづくり	5月	・どんなマップを作るか考える ・現地を歩いてみて考える ・野菜売り場マップを作る ・場所と季節によって売っているものが違う ・値段も書いておく		◎	○	

企画名

驚きの鶴いもプロジェクト

じっくり
やること

農業体験を学校行事として行っていきます。生産した農作物は“鶴中ブランド”化し、鶴中で生産したものであることを対外的にPRしていきます。鶴中ブランドとして認知されることで、作り手のやる気も向上します。収穫祭の開催やコミセン祭りへの出店など、生産した農作物を活用して、地域交流を積極的に行います。

	いつ (日程・時期)	何を (実施事項)	誰と(自分)			
			家庭	学校	地域	その他
手伝いに行く		◆既存にある取組 ・浜之郷小学校では水田を借りて田植え、収穫をやっている ・自治会ではG.Gファームサークルがある（100坪） ・1,000円会費で15～16名が参加 ・茅産茅消（地産地消）		◎	○	
		◆場所探し ↓ ・耕作してほしいと思っている場所があるのでは？ ・畑を借りる（生産緑地） ・校庭や屋上に畑はできる？		◎		
		◆農業体験を学校行事にする ↓		◎		
		◆鶴中ブランドづくり ↓		◎		
		◆収穫祭をする ◆コミセン祭りに出店		◎		

地域福祉室

キックオフイベント

企画名

若い世代もいっしょにボランティア

若い世代にボランティアセンターのことをもっと知ってもらうために、ボランティア体験をプレゼンする発表会や子ども会での紙芝居を開催します。SNSなども利用した広報活動を実施します。

いつ (日程・時期)	何を (実施事項)	誰と(自分)			
		家庭	学校	地域	その他
4月頃	◆中学生がボラセンの活動を見学・体験する 		☐	☐ ボラセン 自治会	
	◆SNSを利用して広報をする ・LINEのタイムラインを利用する ・ボラセン・中学生でどのように広報をするか相談 (流行のSNSを使えば、それを見た中学生が拡散してくれたり、活動がさらに発展していく事が期待できる。また、大人もSNSを使う良い機会になる)		☐	☐ ボラセン 自治会	
	◆チラシ・うちわ等で広報をする ・サポーター募集など、周知したい内容に特化させ、住民の方に読んでもらえる見た目・内容にする ・回覧をまわす		☐	☐ ボラセン 自治会	
7月頃	◆パワーポイントを作って公民館で発表会 ◆子ども会で紙芝居 ・PTAに声かけ		☐	☐ ボラセン 自治会	☐ 子ども会 PTA

じっくりやること

企画名

地域みんなでボラセンの活動を広げていく

ボランティアセンターのサポーターを増やし、将来的には活動の幅を広げていくために、ボランティアセンターの必要性の周知やニーズの調査といった活動を継続的にを行います。

いつ (日程・時期)	何を (実施事項)	誰と(自分)			
		家庭	学校	地域	その他
2~3年後まで	◆ボランティアセンターの必要性の周知 ・地域のニーズを把握するために、住民アンケートでニーズを掘り起こし、将来のボラセンの活動等について考える  			☐ ボラセン 自治会	
継続	◆ボランティアセンターのサポーターを増やす ・チラシ等で広報を続ける			☐ ボラセン 自治会	
5年後以降	◆ボランティアセンターの活動内容を増やす ・各自治会にボラセンがあれば尚良いのではないかな ・依頼内容毎にサポーターを班分けして活動を行っていく(家事支援、子守り、自分の得意なことをお手伝い、話し相手など)			☐ ボラセン 自治会	

防災対策室

キックオフ
イベント

企画名

移動式ホース格納箱に置く、目で見えて解るマニュアル

いざという時に、みんなが「移動式ホース格納箱」をえるようにするために、緊急時にも一目で理解できるような分かりやすいマニュアルを作って、格納箱の中に設置します。

いつ (日程・時期)	何を (実施事項)	誰と(自分)			
		家庭	学校	地域	その他
3月	◆もう一回体験！するための準備 ・消防に申請する ・体験の参加者を検討する			○ 自治会	○ 体験参加者への連絡
4月	◆もう一回体験！を実施 ・もう一度教えてもらいながらポイントをチェック ・写真、動画、音声をスマホで撮影 ・格納箱の中に入っている物にわかりやすい名前を付ける ・体験参加者が、各自でマニュアルの内容を考えてみる	○ 家族にも参加してもらい、アイデアをもらう	○ 先生に協力してもらう(引率)	○ 小さい子や高校生など、幅広く参加してもらう	○ 市、消防
5月 ・5月中に3回、みんなで集まる	◆みんなで集まってマニュアルを作る ・P Cで作る(中学生がP Cを使うことができる) ・言葉と写真でわかりやすくする ・原稿が出来たら、印刷してラミネート加工する			○ 印刷などの製作関連は自治会	
7月中	◆マニュアルを40数ヶ箇所に設置する ◆設置したことを地域にお知らせするために回覧をまわす	○	○	○	○ 市、消防

企画名

防災団結委員会／地域結束委員会／地域盛り上げ委員会／BTI

じっくり
やること

防災啓発や年中行事への参加を促すために、まちづくりに関するDVDを製作する委員会を設立します。

いつ (日程・時期)	何を (実施事項)	誰と(自分)			
		家庭	学校	地域	その他
1年くらい	◆まちづくりに関するDVDを作る「委員会」を設立 ・委員会の存在は、地域がつながる手段。中学生の啓発にもなる ◆メンバー募集 ・中学生がチラシを配る(大人が配るよりも見てもらえる) ・自治会の掲示板・回覧板で周知 ・DVDを作る活動自体がメンバー募集につながる ◆DVDを作る ・DVDの内容はまちづくりに関することなら何でも(例)地域の年中行事のレポート、ドキュメンタリー、防災をテーマにしたものも作りたい 中学生が行事に参加するようになるための働きかけを行うために、 ・取材や動画撮影の時には友達も連れていき、行事の感想を語ってもらう ・編集に凝る、流行の音楽、写真や動画を利用する ・マンガ、ストーリー性、キャラクターを使って見ていて楽しいものにする	○ 兄弟	○ 中学生	○ 自治会	○ 卒業生
2年目	◆作ったDVDを宣伝して、新メンバーを募集 ・面白そうな活動をしていると、生徒の関心も引ける ・YouTubeで広告し、中学生にも見てもらう ・小学校に配布して授業で見てもらう				
3年目	◆中学生の自分たちは、高校生になっている ・中学生のときよりも、一人で動けるようになっていて、さらに自分の意思で活動できるようになっている				

